ＷＣＰＦＣ北小委員会の結果についての
ＪＦ全漁連コメント

１１月２０日、ＷＣＰＦＣ北小委員会の第３回目が開催された。

合同作業部会及び前回の北小委員会において、韓国との隔たりが大きく、参加国の合意に至らなかったが、その後、政府関係者による昼夜を問わない粘り強い調整・交渉の結果、ほぼ日本提案通りに関係国の合意に至ったことについては、我が国の漁業者は一定の評価をするものである。

まずは、短期間のうちに困難な調整・交渉に尽力された政府関係者に対し、深く敬意を表する。

一方で、太平洋クロマグロ資源は、関係者の長年にわたる厳しい資源管理の取組もあり、過去に例を見ない水準まで回復しているが、現在の漁獲枠はそれに見合った水準となっておらず、現場の漁業者は依然として資源量回復の恩恵を十分に受けられていない。また、クロマグロが増加したことにより、エサとなる魚種等の生態系への影響も考えるべきである。

ついては、今月末に開催されるＷＣＰＦＣ年次会合において、北小委員会で合意された増枠内容が確実に確保されるよう、国に対し改めて求めるとともに、長年にわたり厳しい資源管理に協力してきた沿岸小規模漁業者に対し、必要な配慮が図られることを強く求めるものである。

２０２６年１１月２０日

全国漁業協同組合連合会